

取候所有之段、十村・御扶持人等より相斷候はゞ、免切指除可申事。

（朱書。是は過怠免に不及候。裁許之十村急度可相替也。）

一、早稻・中稻態と殘置候事有之候。此見様、免切に出候時節には藁折くさり申物に候。併晚田稻に而も、水押之場所などは、左様に見え申事も有之候事。

一、免狀一度渡候而は、二度と調替申事不可有也。惣而申渡候儀は、何に而も重而變改堅く有之間敷事。

一、見習人之入札は、先は不用候へ共、外より引下げ申分は、様子により取用申儀も可有之事。

但、見習人之入札見計、兩度程平均帳に入可申事。

一、指除高、早稻・中稻刈跡畑・屋下、此分也。毎年取立候麥・菜種歩數帳爲引合、一村之家數を以中勘に歩をたつれば、大概に知べし。見立に出候節、必歩數帳可持參事。

一、郡並に出候同役兼而申談、何に而も様子有之儀は可承合事。

附、郡並見立有之候はゞ、郡境之所々免相、其心得可有之事。

一、免切之圖り、大概古法は何様之不作年に而も、定免五ヶ一計之圖りに候事。

一二八 引免之儀覺

一、元文三年洪水、其上虫指にち付、作躰以之外惡敷成候旨に而、諸郡より見立願候に付、段々僉議有之候へ共、見立無之候は而は難叶趣に付、御扶持人共々申渡、先内々に而願村書出候様に申聞候所、見分之様子上中下に分、惣村數二千二百七ヶ村書出申候。依之精誠僉議數度申渡、左之通相極申候。

古例不作之節、御扶持人等内見分仕儀、改作所々致内達、指圖を請申儀に候所、此度内達も不仕遂見分候儀、沙汰之限之段、大塚彌五太夫急度相尤候。

一、段々僉議之上、願村數千十五ヶ村に相極り、先右之村數損毛高中勘に相しらべ、大概何程計之免切に可相成儀と申儀内ならし致し、御算用場奉行中にも猶更致内談、免切に可罷出趣に決定之上、乞帳指出候様に申渡候事。

一、乞帳之表を以中勘損毛高相しらべ申様子、左之通に候。

一二九 諸郡定納口米高覺

覺

能美

一、六萬九千三百三十九石二斗八升六合

定納 一萬四百石九斗

口米 千百六十四石九斗一升

石川

一、九萬千六百七十一石

定納 一萬三千七百五十五石六斗五合

口米 千五百四十石七合

河北

一、五萬二千二百六十七石三斗四升五合

定納 七千八百四十石一斗一合

口米 八百七十八石九升一合

羽咋

一、四萬八百六十六石六斗

定納 六千二百二十九石七斗五合

口米 六百八十六石五斗四升二合

鹿嶋

一、二萬九千七百二十三石

定納 四千四百五十八石四斗五升

口米 四百九十九石三斗四升六合

礪波

一、十三萬四千二百七十六石六斗六升二合

定納 二萬百四十一石四斗九升九合

口米 二千二百五十五石八斗四升八合

射水

一、八萬二千八百二十五石六斗四升三合

定納 一萬二千四百二十三石八斗四升六合

口米 千三百九十一石四斗七升

右七郡草高

〆五十萬九百六十三石五斗三升六合

定口

〆八萬三千五百六十一石三斗二升